

動物の診察室から

○ 66 ○

11月の深夜、1本の電
話がありました。初診の
患者様ですが、わんちゃ
んのけいれん発作が続い
て治まらないとのこと
で、診察を希望されまし
た。

すぐに、連れてきても
らいけいれん発作を抑え
る注射をし、脳圧を下げ
る点滴が始まりました。
しかしそのとき既に両目
の視力はなくなっていた
のです。

抗けいれん薬で回復も



視力が回復してきたアルフ君

育ててもらいましたが、
先月の夜中に急にけいれ
ん発作が起きました。
原因は脳腫瘍で、抗けい
れん薬で、発作を抑えて
も起き上がる
ことはできま
せん。一晩だ
け、お家へ帰
ってみたいですが、ボン
ポコちゃんを気遣った
め、お母さまの具合が悪
くなってしまうました。

家での看護は難しくボン
ポコちゃんは、突然の発
作から1週間後の深夜
に、10年前、子犬の頃に
いた病院で静かに息を引
き取ったのです。お母
さま、ご苦労さまでした。
ボンポコちゃんは、かわ
いがってもらったお母さ
まを、天国から見ている
と思います。

突然の発作

その子の名前は「アル
フ君」。13歳になるオス
のシエルティです。1年
前に初めて発作が起こり
ましたが、その後は散発
的な発作だけで過ごして
きたそうです。高齢にな
ってから発症するけいれ
ん発作は、脳に腫瘍があ
る場合が多くあります。
アルフ君は、抗けいれん

日には退院となったので
す。その後、1週間に一
度、診察に来ますが、視
力も少しずつ回復してき
ました。アルフ君は、C
T検査では脳腫瘍は分か
りませんが、CT
で分からない脳腫瘍はあ
ります。次の検査はMR
I検査になるのですが、
新潟でMRIがある施設

はないため東京まで行か
なくてはなりません。
アルフ君は年齢的なこ
と、症状が落ち着いてい
ることから、これ以上の
検査は行わず、今の治療
を続けることになりました。
アルフ君のように、
突然の発作から回復する
子もいますが、そうでな
いこともあります。

脳神経の症状は、初め
は「何か様子がおかしい」
と連れてこられる場合が
あります。最初の症状が
軽い運動失調でも、脳神
経の病気は進行してい
き、ある日突然のけいれ
ん発作として現れます。
また、兆候が何もなく、
突然の発作が起こる場合
もあるのです。

日本犬のボンポコちゃ
んは10年前に私の病院か
らもらわれていった子で
す。とてもかわいがって